2月14日のウクライナ情報

安斎育郎

❶米政府、プーチン大統領のインタビューを「うのみにすべきではない」と警告（Forbes, 2024 年 2 月 10 日）

米保守系 FOX ニュースの元司会者タッカー・カールソンがロシアのウラジーミル・プーチン大統領にインタビューしたことを巡り、米国家安全保障会議のジョン・カービー戦略広報調整官は、米国民の間でウクライナに対する支持が損なわれる懸念はないと述べた。

カービー調整官は、ロシアが 2022 年 2 月にウクライナ侵攻を開始した時点で「ウクライナは誰にとっても脅威ではなかった」とし、「一方的に隣国に侵攻した」のはプーチン大統領であり「米国民は誰が悪いのかよく知っている」と説明。「ウクライナが何のために戦っているのか、人々が求めているのはわれわれの助けだけだということを、米国民は理解している」との見解を示し、ウクライナが「米軍の派兵」を求めているわけではないと付け加えた。その上で、カールソンのインタビューを見る人は、プーチン大統領の話を聞いているということを忘れず、同大統領の言うことを「うのみにすべきではない」と警告した。

カービー調整官は、米政府は「連邦議会にはウクライナに対する超党派の強い支持があると確信している」としながらも、今回のインタビューが米議員に与える影響については「推測の域を出ない」と述べた。

カールソンは 8 日、自身のウェブサイトでインタビューを公開した。今回のインタビューは、ロシアが約 2 年前にウクライナ侵攻を開始して以降、プーチン大統領が西側の記者からの取材に応じる初めての機会となった。

今週初め、米 FOX ニュースの看板司会者だったカールソンがモスクワのホテルを出て、黒い自動車で大統領府（クレムリン）に向かうところを目撃されたことから、プーチン大統領に取材をするのではないかとの憶測が広がっていた。カールソンは 6 日、X（旧ツイッター）に「私たちは報道の世界にいる」として、インタビューをすることが「私たちの仕事だ」と表明する動画を公開。プーチン大統領にインタビューしたことを明らかにした。

ウクライナ侵攻を巡っては、カールソンは「米国人の多くはこの地域で何が起きているのか、本当のところは何も知らない」と批判した。カールソンはかねてより、米国のウクライナへの軍事支援に異議を唱えている。

ロシア大統領府は 7 日、カールソンにプーチン大統領へのインタビューを許可したことを認めた。英ロイター通信によると、同大統領府は、カールソンの見方が「決して親ロシア的ではなく、親ウクライナ的でもない」代わりに「親米的」だったため、プーチン大統領へのインタビューを許可したと説明した。

https://www.msn.com/ja-jp/news/world/

❷ウクライナ軍の新総司令官、戦術転換を踏襲の意向 大局観に疑問の声（毎日新聞、2024 年 2 月 10 日）

ウクライナ軍のシルスキー総司令官は 9 日、通信アプリ「テレグラム」で 8 日の就任後初の声明を発表し、ロシアとの戦争に関して「戦闘の方法や手段を変え、絶え間なく改善することによってのみ成功できる」と述べた。ロイター通信などが報じた。無人機や電子戦の重視など、ザルジニー前総司令官が打ち出した戦術転換の方向性を踏襲する考えを示した形だ。ただ、シルスキー氏は局地戦にこだわって多大な犠牲者を出したこともあり、大局観を疑問視する声もある。

ゼレンスキー大統領の判断により、シルスキー氏は陸軍司令官から昇格した。2022 年の首都キーウ（キエフ）の防衛や東部ハリコフ州の奪還で功績があった一方、22 年夏以降の東部ドネツク州バフムトの防衛戦では多数の死傷者を出した。露軍に同地を制圧された後、南部での反転攻勢に戦力を振り向けるよう求める声が上がったが、バフムト奪還に固執。戦果は出ず死傷者をさらに増やした。

米メディア「ポリティコ」によると、新総司令官に対して軍内部には「作戦の目的が描けていないのに、戦線突破や小規模村落の制圧などの戦術的な成果にこだわる」との評判がある。自軍の犠牲をいとわない姿勢から「殺りく者」の悪名で呼ぶ兵士もいるという。シルスキー氏は 9 日の声明で「軍が最も重視するのは、兵士の命と健康だ」と強調。AP 通信は「バフムトの戦闘で受けた批判に配慮した発言だろう」と分析した。

報道によると、シルスキー氏は「前線の部隊が、友好国から供与された最新兵器を求めていることも踏まえ、明確で詳細な計画が必要だ。迅速かつ合理的に軍需品を部隊に届けることが、後方支援の主要な任務だ」などとも述べた。【ワシントン秋山信一】

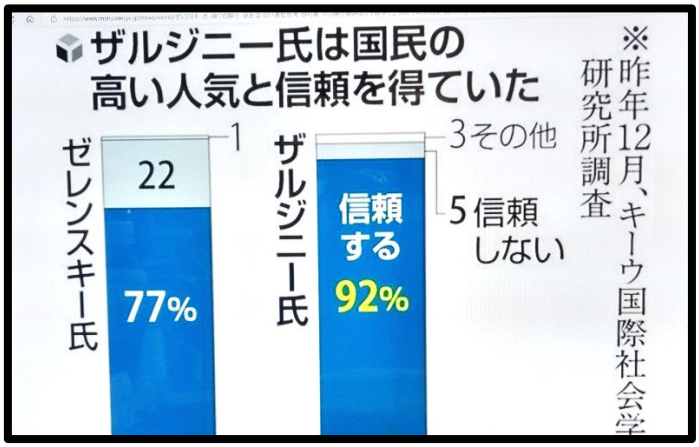
https://www.msn.com/ja-jp/news/world/

❸ゼレンスキー氏「賭けの解任」…後任は「旧ソ連型思考」の将軍、兵の犠牲顧みない作戦多く士気低下の恐れ（讀賣新聞、2024 年 2 月 10 日）

ロシア軍との戦闘が行き詰まる中、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、軍制服組トップのワレリー・ザルジニー総司令官（50）を解任するという大きな「賭け」に出た。軍事面で兵の士気低下、政治面で国民の批判を招く「二重のリスク」をはらんでいる。

ゼレンスキー氏は8日夜、険しい表情でビデオ演説し「我々は以前に比べ、勝利について話すことが減っている」と吐露した。前進できないウクライナ南部、露軍の猛攻を受ける東部の戦況により「国民のムードにも影響した」と国民の戦意低下を指摘し、軍の立て直しのため「リセット」が必要だと強調し

た。
　ゼレンスキー氏の言葉通り、再スタートが切れるかどうかは不透明だ。
　理由は人選だ。後任のオレクサンドル・シルスキー陸軍司令官（58）は、8歳年長で旧ソ連時代にモスクワ近郊の士官学校で軍事を学んだ「旧ソ連型思考」の将軍との評価がある。2022年2月の侵略当初、首都キーウを守り切った功績がある一方、23年5月に露軍に制圧された要衝バフムトでの戦闘では、早期撤退を聞き入れず、数千人規模の経験豊富な兵士を失ったとされる。兵の犠牲を顧みない作戦を立てることが多く、「一般兵に広く嫌われている」（米紙ワシントン・ポスト）という。英字紙「キーウ・ポスト」によると、前線の兵士からは「大統領が代わるのはいいが、ザルジニーの交代はダメだ」との声が出ており、かえって士気の低下を招く恐れがある。
　国民も反発し、ウクライナの強みだった一体感が損なわれるとの懸念もある。露軍の侵略当初から軍を率いてきたザルジニー氏は「国家防衛の象徴」で、国内各地のカフェやレストランなどに肖像画が掲げられている。
　調査研究機関「キーウ国際社会学研究所」が昨年12月に行った世論調査では、ザルジニー氏を「信頼する」との回答が92％で、ゼレンスキー氏の77％を上回った。解任があれば「否定的に思う」との回答が72％に達した。ニュースサイト「ウクライナ・プラウダ」によると、ウクライナ保安局は解任にあたり、キーウで「暴動が起きる可能性」まで警戒していたという。
　ウクライナ軍は米国の追加支援の遅れによる武器・弾薬の欠乏と、志願兵の減少に伴う兵士不足で苦境に立たされている。このまま戦況を好転させられない場合、軍や国民の不満が政権に向かいかねない。



https://www.msn.com/ja-jp/news/world/

❹「ロシアの思惑代弁」 トランプ氏発言に欧州首脳ら反発（JIJI.com，2024年2月13日）

【ベルリン時事】ドイツのショルツ首相は 12 日、北大西洋条約機構（NATO）の防衛義務を果たさない可能性を示唆した米国のトランプ前大統領の発言について、「ロシアの思惑通りだ」と反発した。

加盟国への攻撃を全体に対する攻撃と見なす NATO の集団防衛を軽視していると批判し、「無責任で危険だ」と訴えた。

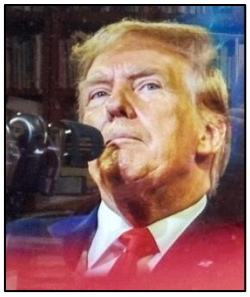
ベルリンを訪れたポーランドのトゥスク首相との共同記者会見で述べた。トゥスク氏は、トランプ氏の発言が「（ロシアによる）真の脅威に気付いていない人」に対する警告になるとの見方を示し、防衛支出の拡大を呼び掛けた。

また、フランスのセジュルネ外相は 12 日、「トランプ氏の描くシナリオの衝撃を和らげるために備えなければならない」と語り、NATO に依存しない形で欧州の安全保障戦略を検討することも必要だと強調した。

https://news.yahoo.co.jp/articles/1b777539b82c880a838689a1790cf23374de6e2f/images/000

❺ トランプ前大統領、ロシアのNATO侵攻促す発言　軍事費の負担めぐり（CNN，2024年2月12日）

（CNN） 米国のドナルド・トランプ前大統領は10日、軍事費の拠出が基準に満たない北大西洋条約機構（NATO）の加盟国に対しては、ロシアが「何でもやりたいことをやる」ように促すと発言した。もし自身が大統領に再選された場合、同盟の核心である集団的自衛権を行使しない意向を示した形だ。



トランプ氏は米サウスカロライナ州コンウェイの集会で「私が登場するまでNATOは破綻（はたん）していた」と主張。「『みんなが払わなければならない』と私が言うと、彼らは『我々が払わなくても、あなたは我々を守ってくれるか』と尋ねた。私が『絶対にない』と言うと、彼らはその答えを信じられなかった」と語った。

さらに、「ある大国の大統領の1人」から、もし自分たちが払わなくても、ロシアの侵攻を受ければ米国はその国を守ってくれるかどうか尋ねられたと述べ、トランプ氏は「いや。私はあなたを守らない」と答えたと回想。「実際のところ、私は彼らが何でもやりたいことをやるよう促す。あなたは払わなければならない」と言ったと振り返った。

この発言についてジョー・バイデン大統領は11日、トランプ氏が「NATOの同盟国を見捨てることをはっきりさせた」と述べ、「トランプはプーチンに対してさらなる戦争と暴力のゴーサインを出し、ウクライナに対する残忍な攻撃を続け、侵攻をポーランドやバルト国の人々に対して拡大させる意向を認めた。恐ろしくて危険だ」とする声明を陣営を通じて発表した。

NATOのイェンス・ストルテンベルグ事務総長は11日の声明で、「同盟国が互いを防衛しないという発言は、米国も含めて我々全ての安全保障を弱体化させ、米国と欧州の兵士の危険を増大させる」と指摘した。

https://news.yahoo.co.jp/articles/5a5b02b1c89d7a3d6474ec48685ba062ce4ce791/images/000

❻戒厳令と総動員令を延長　ウクライナ、5 月まで（2024年2月12日）

【キーウ共同】ウクライナのゼレンスキー大統領は 12 日、戒厳令と総動員令を 5 月 13 日まで延長する法律に署名した。2022 年 2 月の侵攻開始に伴い全土に発令され、延長を繰り返している。

ウクライナのゼレンスキー大統領＝1月、キーウ（大統領府提供、ゲッティ＝共同）（KYODONEWS）

https://news.yahoo.co.jp/articles/ce50379093a59b4bb22cc9655fd8a9a3e5cd9e84/images/000

❼【字幕】タッカー：プーチンインタビュー⑥和平交渉が進まない理由と西メディアの煽りストーリー集（2024年2月12日）

和平交渉が決裂した後、なぜ交渉が行われないのか。

また西側報道で言われている様々なストーリーにプーチン大統領が一つ一つ丁寧に答えます。
　答えるプーチンもすごいけど、タッカーはメモも見ずに次々と西メディアで騒がれている”憶測”を質問していく。
https://twitter.com/i/status/1757015499710562608

https://twitter.com/Jano661/status/1757015499710562608?s=09

❽ジョン・ミアシャイマーの「タッカー＝プーチン対話」評（2024年2月11日）

　タッカー・カールソンは、あなたが彼を好きであろうとなかろうと、とても賢い人です。
　ウラジーミル・プーチンは世界史に残る人物です。
　彼が何を考えているのか聞くのは良いことなのではないでしょうか？
　私は、それは良いことだと思います。

　「まあ、これは外交政策のエスタブリッシュメントの典型的なやり方ですが、ヒラリー・クリントンも含めて、自分たちと意見の違う人たちとは、争いの本質ではない代わりのものに対処しようとするのです。
　彼らがするのは罵倒です。彼（タッカー）は役に立つバカ。彼はプーチンの操り人形。彼はあまり賢くない、などなど。ヒラリーがドナルド・トランプの支持者について言ったことを覚えていますか？彼らは ”嘆かわしい人たち ”だと。これは驚くほど愚かな発言です。そして、基本的に同じ攻撃方法がここでも使われています。
　プーチンに同意する必要はないし、タッカー・カールソンに同意する必要もありません。
　プーチンは世界史的な人物です。米国にとって重要な人物です。彼は世界に対して特別な見解を持っています。彼はウクライナ紛争について特別な見解を持っています。彼はバイデン政権、アメリカに対して特別な見方を持っています。それらすべての事柄について、彼が何を考えているのかを聞くのは良いことなのではないでしょうか？私はそれは良いことだと思います。
　タッカー・カールソンは、あなたが彼を好きかどうかは別として、とても賢い人です。彼は基本的にプーチンに同情的です。敵対的ではありません。それはつまり、プーチンに洗練された方法で自分の主

張を展開する機会を与えるということだと思います。

人々は賛成することも反対することもできます。しかし問題は、最近のアメリカではこのようなやり方は通用しないということです。プーチンに対するルサンチマン（復讐感情）とヒステリーがあまりに多いので、タッカー・カールソンがプーチンにインタビューすると考えただけで、多くの人が気が狂い、愚かな行動をとるのです。ヒラリー・クリントンもそうでした」

https://twitter.com/i/status/1755723032662802648

https://twitter.com/Alzhacker/status/1756655695368536345?s=09

❾プーチン氏へのインタビューにホワイトハウスはアクセス制限　マスク氏は激怒（2024年2月14日）

イーロン・マスク氏は、ホワイトハウスが Facebook*に対してタッカー・カールソン氏のプーチン 氏

へのインタビューの拡散を制限するよう要請した事実を知り、憤慨した。
「ホワイトハウスからの要請を受けて…Facebook*(ロシアで禁止対象となった SNS、Meta 社は過激派活動を行っているとしてロシアでは活動が禁止)はタッカー・カールソン氏がプーチン氏に対して行ったインタビューの拡散を自社プラットフォーム上で著しく制限した」米国人活動家のイアン・マイルズ・チョン氏は自身の X にこう書いている。
ホワイトハウスはカールソン氏のインタビューの拡散をなんとか制限しようと必死だとチョン氏は断言している。
チョン氏のポストは SNS ユーザーおよび X を所有するイーロン・マスク 氏の激怒を呼んだ。マスク氏は「これはあまりに酷い検閲レベルだ！」とポストした。